

厚生労働省三重労働局発表

令和5年5月29日

テレビ・インターネット 5月29日記者会見終了後解禁
新聞 5月29日夕刊解禁

【照会先】

三重労働局職業安定部職業安定課

課長 大平 博章

課長 補佐 村井 邦章

地方労働市場情報官 山本 佳弘

(電話) 059 (226) 2305 (内線 228)

報道関係者 各位

「雇用情報モニター報告集計結果(令和5年度第1・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、令和5年度第1・四半期(令和5年4月～6月)実績見込み及び次期(令和5年7月～9月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

調査結果 主な項目の概要

○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が16.4%で前期と比べ減少、「減少」が21.3%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は▲4.9となり前期と比べ8.2ポイント上昇。次期見通しは16.4で上昇予想。

○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が14.3%で前期と比べ減少、「減少」が33.3%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は▲19.0となり前期と比べ1.7ポイント上昇。次期見通しは14.3で上昇予想。

○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が17.7%で前期と比べ減少、「減少」が24.2%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は▲6.5となり前期と比べ0.1ポイント上昇。次期見通しは23.0で上昇予想。

○ 設備投資の見込み

「ある」が33.3%で前期と比べ1.0ポイント増加、「ない」が39.7%で前期と比べ2.2ポイント減少。D I(「ある」-「ない」)は▲6.4で前期と比べ3.2ポイント上昇。

○ 従業員の過不足判断

「過剰」は0.0ポイントで前期と同じ、「やや過剰」は7.9ポイントで前期と比べ増加、「不足」は9.5ポイントで前期と比べ増加、「やや不足」は17.5ポイントで前期と比べ減少。D I(「過剰」-「不足」)は▲19.1となり前期と比べ9.4ポイント上昇(不足判断が減少)。次期見通しは▲23.0で「過剰」判断がやや減少の予想。

○ 雇用調整の状況

実施事業所数は24事業所(38.1%)で、前期の28事業所(45.9%)より減少。

○資料

別添 「令和5年度 雇用情報モニター報告集計」

○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
- ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
- ・調査時期 令和5年度第1・四半期（令和5年4月～6月）実績見込み及び次期（令和5年7月～9月）見通しについて
- ・モニター内訳 民間企業64社（建設業3、製造業46、運輸業2、小売業8、サービス業等5）事業主団体等8
- ・回答状況 民間企業63社、事業主団体等8団体

（注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

令和5年度 雇用情報モニター報告集計

令和5年度 第1・四半期

三重労働局職業安定部職業安定課

令和4年度第4・四半期（5年1月～3月 以下前期）においては、全ての指標のD Iがマイナスとなりましたが、令和5年度第1・四半期（5年4月～6月 以下今期）においても、全ての指標のD Iがマイナスとなりました。

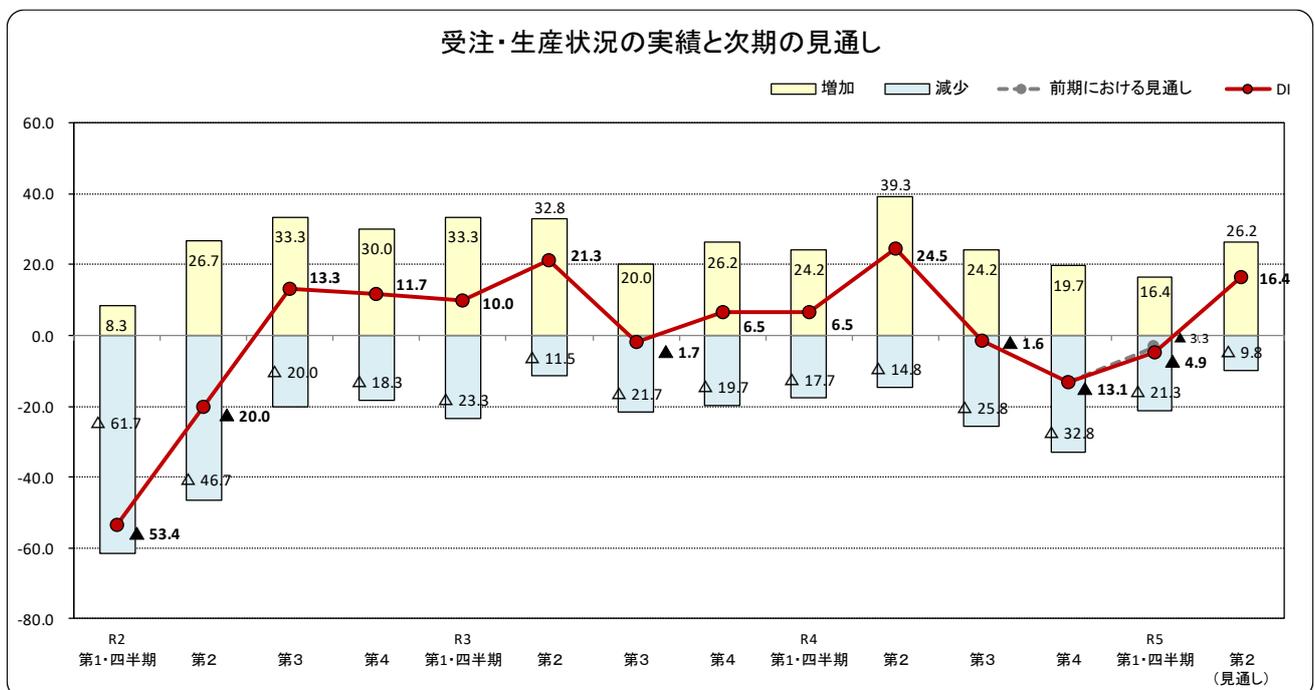
令和5年度第2・四半期（5年7月～9月 以下次期）の予想においては、全ての指標で上昇の見通しとなっています。

1. 受注・生産動向について

【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が16.4%、「減少」が21.3%で、D I（「増加」－「減少」）は▲4.9で前期と比べ8.2ポイント上昇しましたが、3期連続でマイナスとなりました。

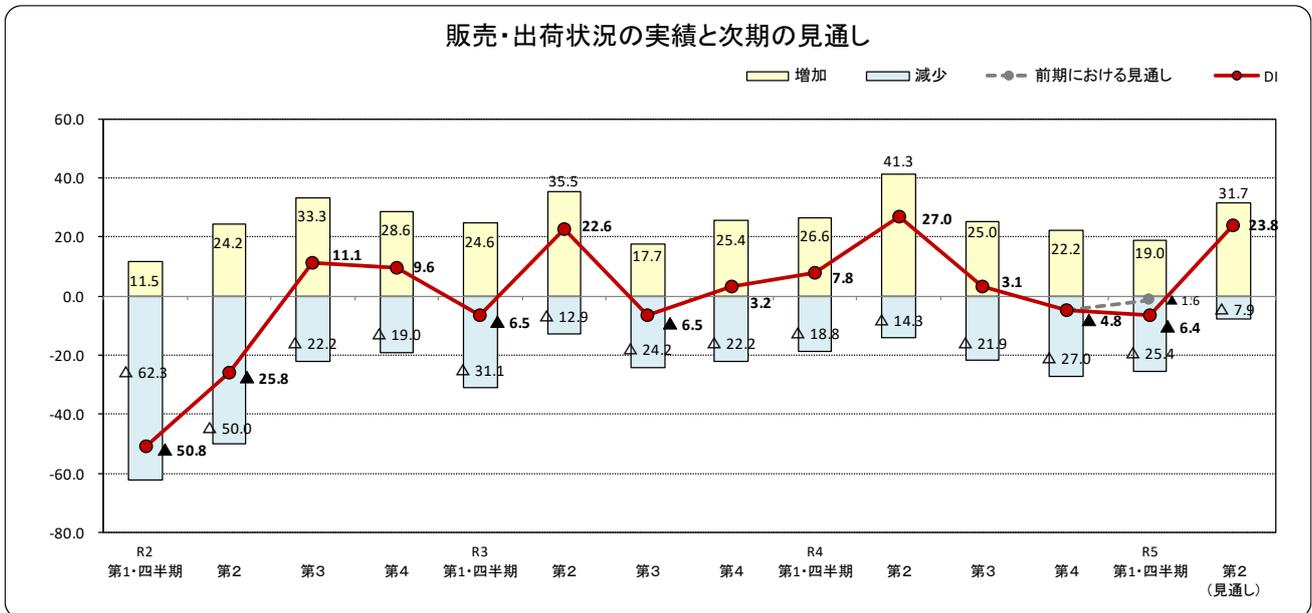
次期の見通しについては、D Iは16.4で、上昇する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が19.0%、「減少」が25.4%で、D I（「増加」－「減少」）は▲6.4で前期と比べ1.6ポイント下降し、2期連続でマイナスとなりました。

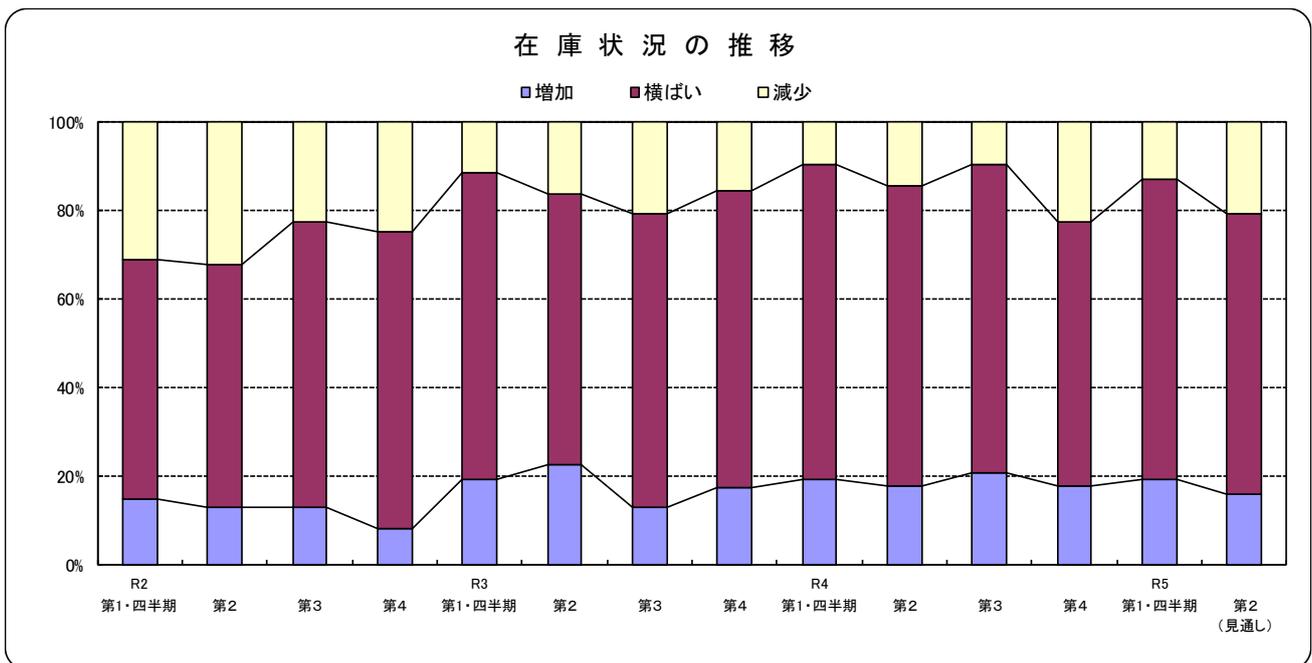
次期の見通しについては、D Iは23.8で、上昇する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が増加、「減少」が減少、53期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「増加」が減少、「減少」が増加する予想となっています。

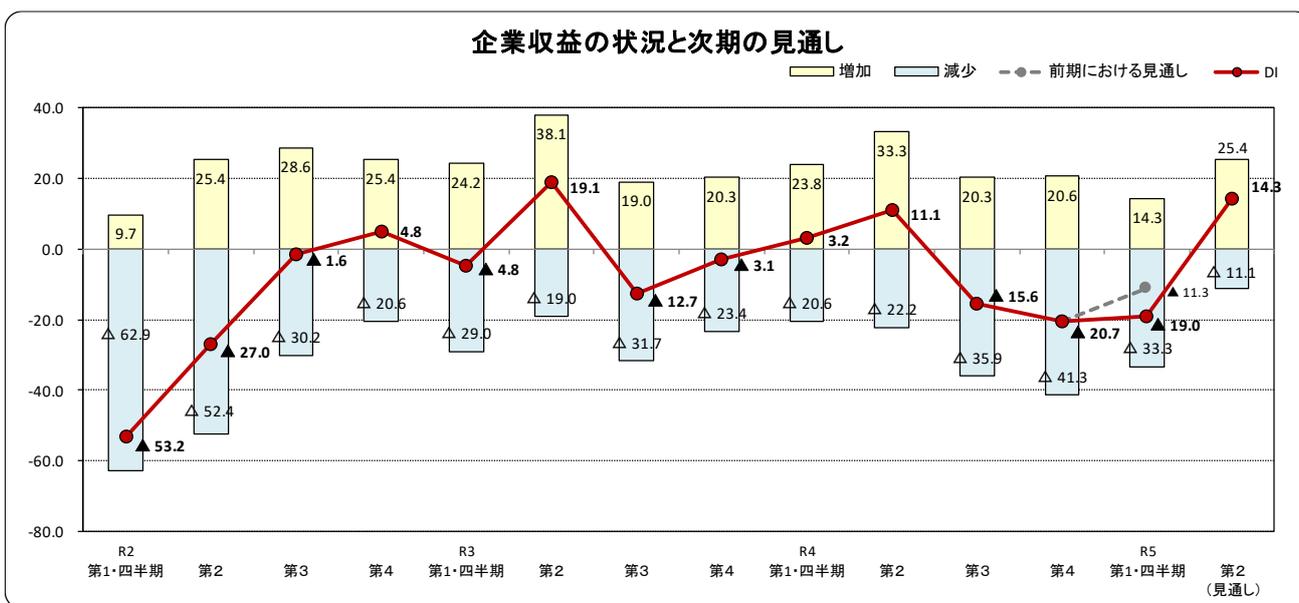


2. 企業活動の状況について

【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が14.3%、「減少」が33.3%で、D I（「増加」－「減少」）は▲19.0となり、前期と比べ1.7ポイント上昇しましたが、3期連続でマイナスとなりました。

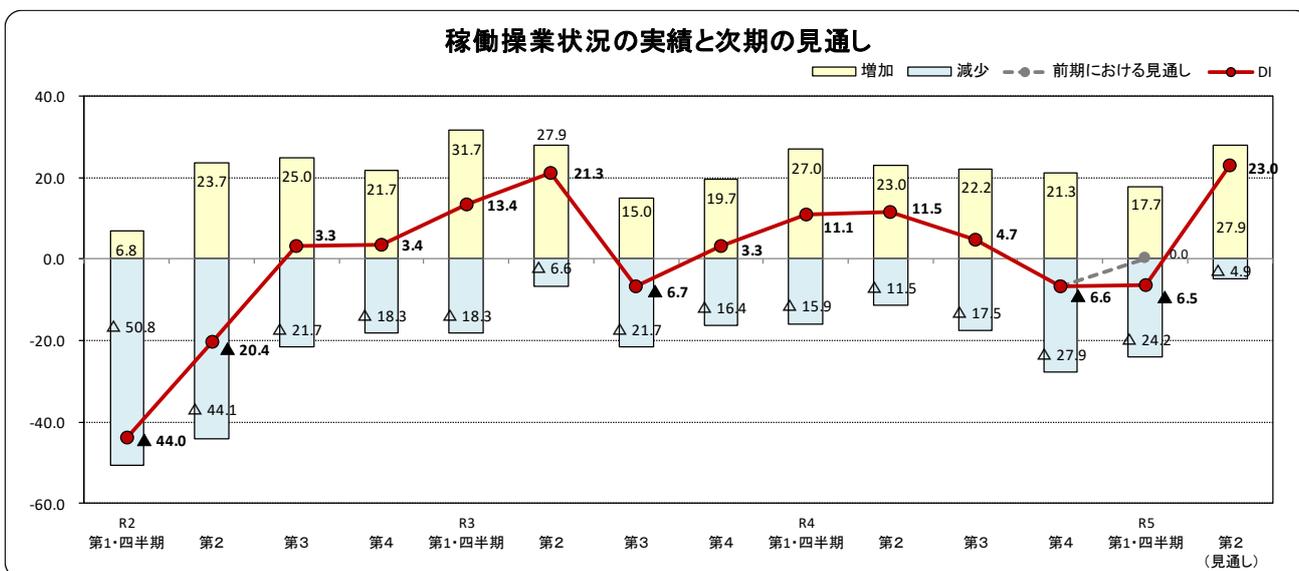
次期の見通しについては、D Iは14.3で、上昇する予想となっています。



【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

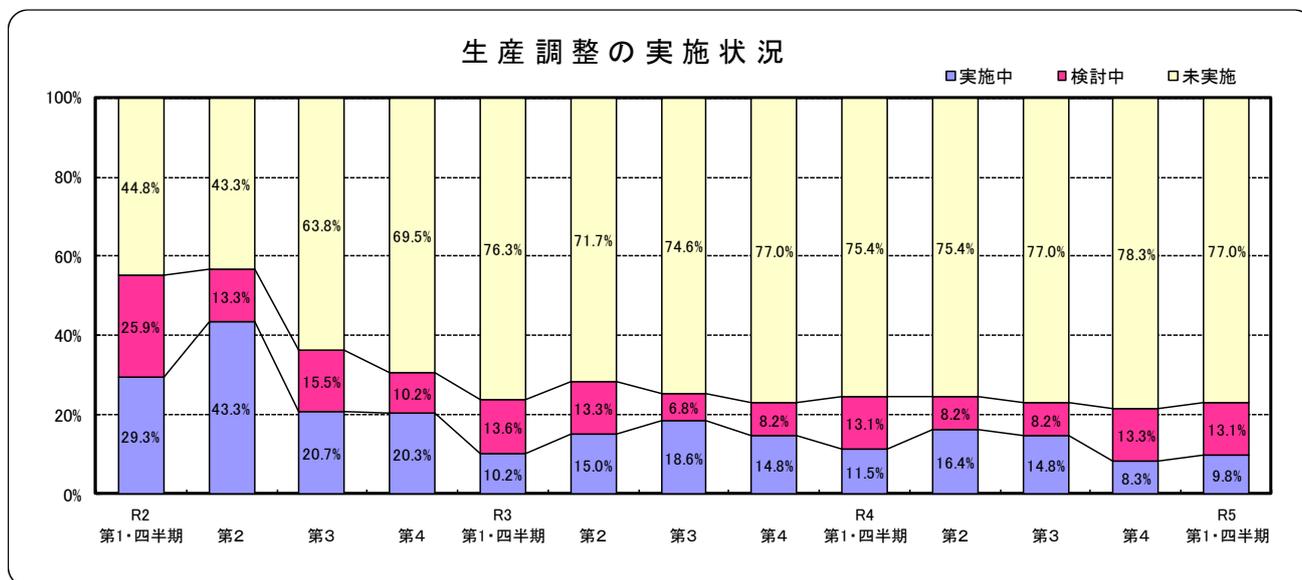
今期の稼働操業状況では、「増加」が17.7%、「減少」が24.2%で、D I（「増加」－「減少」）は▲6.5となり、前期と比べ0.1ポイント上昇しましたが、2期連続でマイナスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは23.0で、上昇する予想となっています。



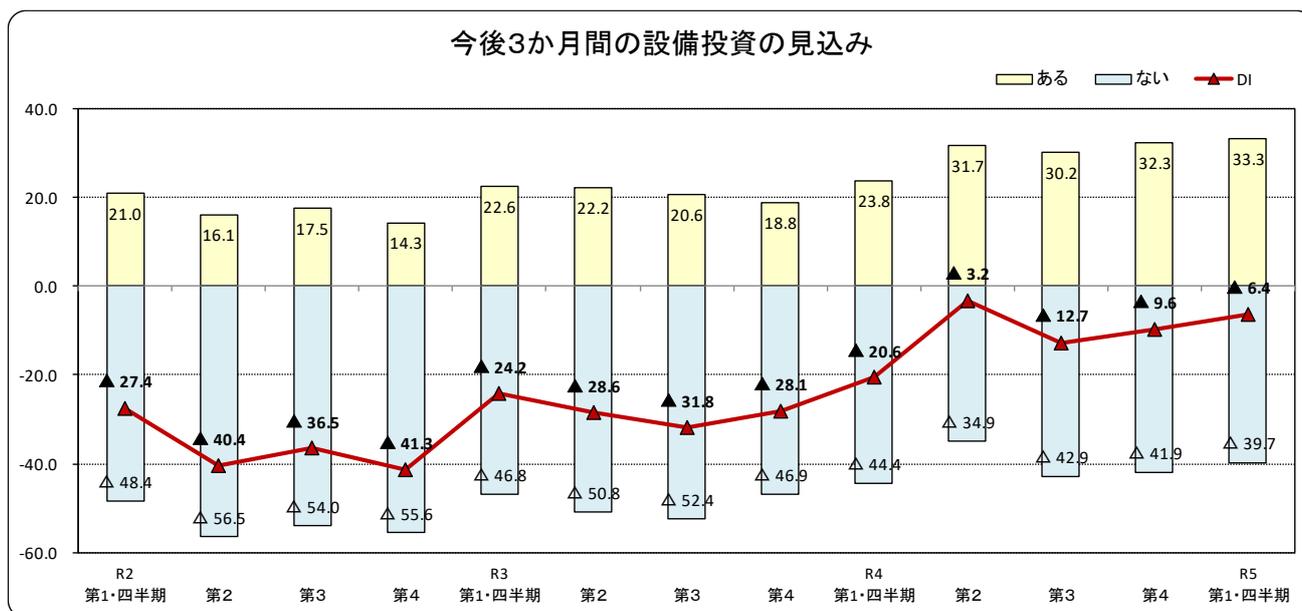
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は77.0%で前期と比べ1.3ポイント減少、「検討中」は13.1%で0.2ポイント減少、「実施中」は9.8%で1.5ポイント増加となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は33.3%で前期と比べ1.0ポイント増加、「ない」とする事業所の割合は39.7%で前期と比べ2.2ポイント減少、D I（「ある」-「ない」）は▲6.4となり、前期と比べ3.2ポイント上昇しました。

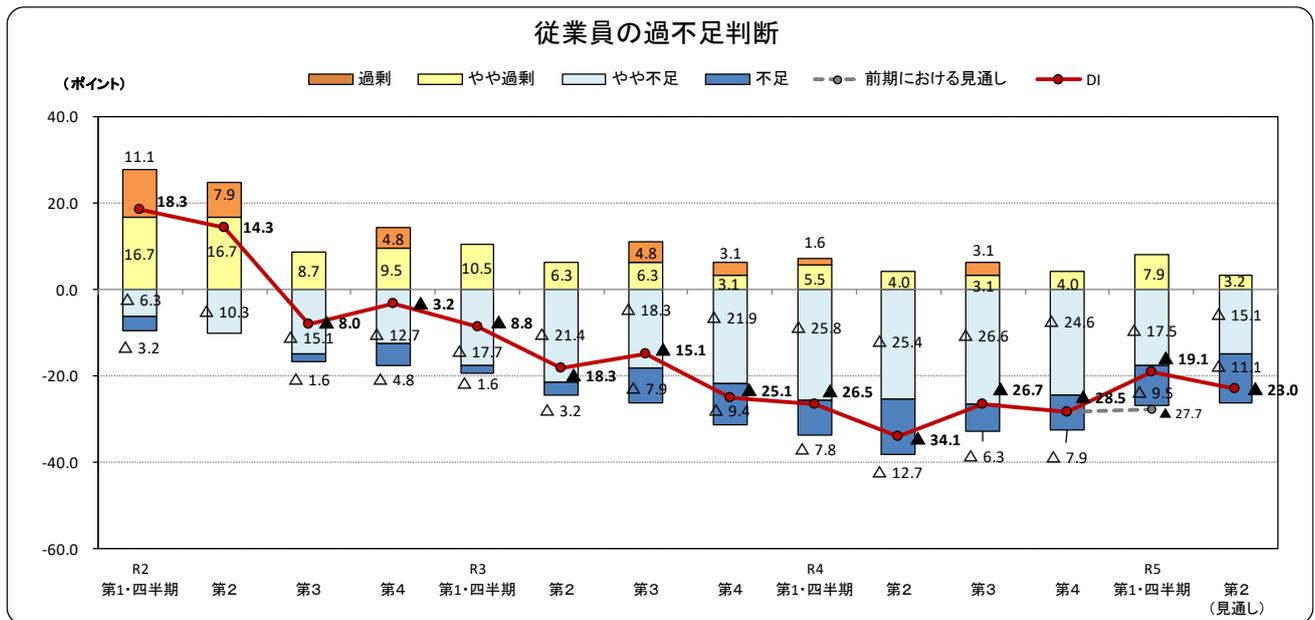


3. 雇用動向について

【従業員の過不足判断】

「過剰」とする事業所は0.0ポイントで前期と同じ、「やや過剰」とする事業所は7.9ポイントで前期と比べ3.9ポイント増加、「不足」とする事業所は9.5ポイントで前期と比べ1.6ポイント増加、「やや不足」とする事業所は17.5ポイントで前期と比べ7.1ポイント減少し、D I（「過剰」-「不足」）は▲19.1となり、前期より9.4ポイント上昇（不足判断が減少）し、11期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

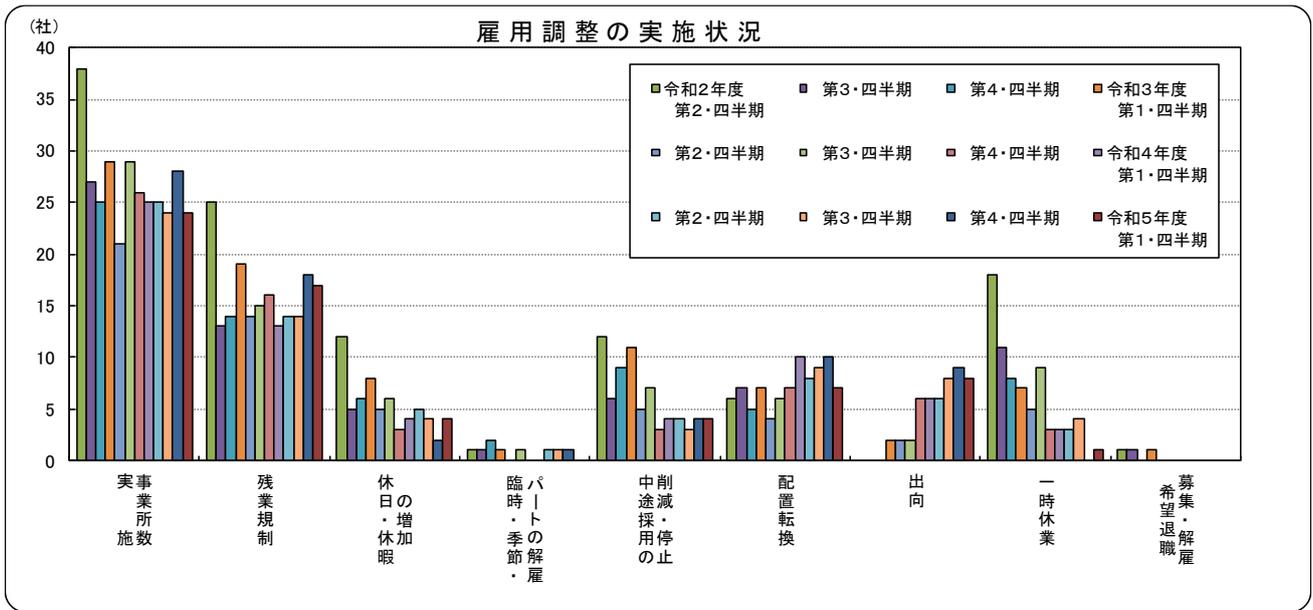
次期の見通しについては、D Iは▲23.0で、過剰判断がやや減少する予想となっています。



【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は24事業所（38.1%）で、前期の28事業所（45.9%）より4事業所の減少となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
令和2年度 第2・四半期	59	18	3	38	25	12	1	12	6	0	18	1
第3・四半期	63	33	3	27	13	5	1	6	7	0	11	1
第4・四半期	62	34	3	25	14	6	2	9	5	0	8	0
令和3年度 第1・四半期	62	30	3	29	19	8	1	11	7	2	7	1
第2・四半期	63	34	8	21	14	5	0	5	4	2	5	0
第3・四半期	63	32	2	29	15	6	1	7	6	2	9	0
第4・四半期	64	32	6	26	16	3	0	3	7	6	3	0
令和4年度 第1・四半期	64	36	3	25	13	4	0	4	10	6	3	0
第2・四半期	63	35	3	25	14	5	1	4	8	6	3	0
第3・四半期	64	34	6	24	14	4	1	3	9	8	4	0
第4・四半期	61	29	4	28	18	2	1	4	10	9	0	0
令和5年度 第1・四半期	63	32	7	24	17	4	0	4	7	8	1	0



<主なコメント>

- 業務用食器はまだ動きが戻ってこないが、全般的にはコロナ禍以前の状況のある程度までは回復している。ただ、飲食店が動き出しており、今後に期待が持てる。（雇用動向について）不足感はあるが、原材料の入手状況や、経費の高騰から採用に踏み切れない組合委員も多い。（協同組合）
- 受注産業であることから、受注状況により状況が変わるが、先の見通しがより不明確となっている。（建設業）
- コロナ5類移行に伴い条件の緩和が行われるため、利用状況は増加する見込み。節電等で電気設備等7割程度の稼働だが、経費は1.3倍となり収益を圧迫している。（医療・福祉）
- 社会保険改正と物価上昇の影響を受け、世間的に賃上げ傾向のなか、人件費が大幅にアップしたことで、人員手当が追いつかない状況。（製造業）
- 自動車関連をはじめとして製造業全般において設備投資が活発に行われた一方、半導体等の部品不足による生産活動への影響がみられた。（製造業）
- 半導体の影響は回復傾向の客先もあれば、引き続き供給不足の客先も多い。（製造業）
- 今期は、半導体供給が安定し、生産が安定すると見込まれる。（製造業）
- 半導体不足等の影響を受け、今期についても生産数を調整している。（製造業）
- 部材入手難は少しずつ回復に向かっているが、電力をはじめ材料価格高騰により収益を圧迫しているため、価格転嫁交渉を進めている。（製造業）
- 一時期の急激な円安については、落ち着きを見せているが、引き続き原材料価格の高騰に伴い製造原価が増加している。一方で全ての価格転嫁が難しい。併せて、最終製品の値上げにより消費者の買い控え傾向がみられる。（製造業）
- 次期については繁忙期の夏休みがあるのでコロナの状況が広がりを見せなければ、大きな集客が見込めると思う。（宿泊業）
- コロナ感染者がだいぶ終息したことにより店内の品出し、製造体制は正常に戻ってきた。ただし、売上、客数は戻ってきていない。電気代の高騰が止まらないため打撃を受けている。（小売業）